

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（10月）

バラ科果樹類：クビアカツヤカミキリ



フラス

幼虫

特徴

- ◆ 幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。4月から10月まで、中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出す。
- ◆ フラスが出ている穴の周辺に幼虫がいる可能性が高い。
- ◆ 若齢幼虫はうどんより細いフラスを出すことが有り、この時期が防除適期。

防除のポイント

- u フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフード、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。

詳細は、「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策 改訂版 R3.12」を参照してください。

http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/kubiaka2112V2.pdf

きゅうり、トマト：コナジラミ類



タバココナジラミ成虫※

特徴

- u タバココナジラミやオンシツコナジラミが加害する。
- u 葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。
- u 多発すると株全体が弱り、収量も減少する。
- u タバココナジラミは、キュウリ退緑黄化病（p.6）やトマト黄化葉巻病（p.6）のウイルスを媒介する。

防除のポイント

- u 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- u ほ場及び周辺の除草を行う。
- u 発生を認めたら、きゅうりではグレーシア乳剤、ベネビアOD等を、トマトではグレーシア乳剤、コルト顆粒水和剤、トランスフォームフロアブル等を散布する。

野菜・花き類：オオタバコガ



オオタバコガ幼虫

特徴

- u 果実や茎、結球部等に食入する。食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

防除のポイント

- u 果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応する。
- u 発生を認めたら、プレバソフフロアブル5（なす、トマト、ミニトマト、キャベツ等）、プレオフロアブル（なす、トマト、ミニトマト、キャベツ、花き類・観葉植物等）等を散布する。

令和4年9月6日発出の防除情報「引き続きオオタバコガに注意を！」についてもご参照ください。

[http://www.jppn.ne.jp/osaka/R4th/boujyojoyouhou/2209_bojo06\(ootabakoga_02\)_soshin.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/R4th/boujyojoyouhou/2209_bojo06(ootabakoga_02)_soshin.pdf)

次回の情報は10月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫の発生予報（10月）

水稲

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲 (収穫後防除)		ジャンボタニシ				

果樹類

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう (収穫後防除)		べと病				
		褐斑病				
		ブドウトラカミキリ				
もも (収穫後防除)		せん孔細菌病				
バラ科果樹		クビアカツヤカミキリ（発生に注意）				
みかん		黒点病				
		ミカンハダニ				
		ミカンサビダニ				
果樹類全般			果樹カメムシ類			

野菜類

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす				褐紋病		
				うどんこ病		
				アザミウマ類		
きゅうり				べと病		
				うどんこ病		
				褐斑病		
				ミナミキイロアザミウマ		
				黄化えそ病（発生に注意）		
					コナジラミ類	
トマト				葉かび病・ すすかび病		
					コナジラミ類	

野菜・花き類

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜・ 花き類					シロイチモジヨトウ	
					ハスモンヨトウ	
					オオタバコガ	
				コナガ		
				アブラムシ類		

水稲（収穫後の防除について）

ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）



ジャンボタニシ
(スクミリンゴガイ)

特徴

- u 成貝の殻高は2～7cm程度。

防除のポイント

- u 刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて、越冬貝を減らす。
- u 耕うん機等の土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。

注) 当該項目「ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稲の被害を防ぐために」より引用。

カラー技術資料「ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）から稲を守りましょう！」
についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

果樹

ぶどう（収穫後の防除について）

べと病



べと病被害葉

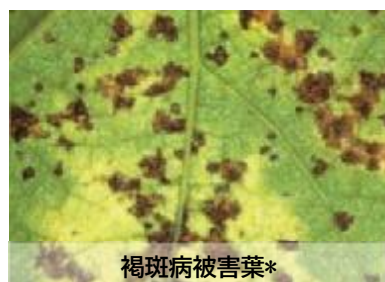
特徴

- u 落葉の組織内で胞子の状態で越冬する。

防除のポイント

- u 被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
- u 収穫後にICボルドー66D、ICボルドー48Q等を散布する。

褐斑病



褐斑病被害葉*

特徴

- u 被害枝や葉に付着した病原菌が越冬し、翌年、再び風雨により飛散し、感染・発病する。

防除のポイント

- u 枯枝や落ち葉、被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。

ブドウトラカミキリ



ブドウトラカミキリ*

特徴

- u 幼虫が枝の内部を食い進み、被害を受けた部分は黒くなる。糞は外に排出しない。

防除のポイント

- u せん定枝や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。
- u 収穫後にモスピラン顆粒水溶剤等を散布する。

もも（収穫後の防除について）

せん孔細菌病



せん孔細菌病発病枝（夏型枝病斑）

特徴

- u 落葉痕部や枝の組織内で越冬する。

防除のポイント

- u 薬剤防除の際は、事前に秋期せん定を行い、薬液がかかりやすくしてから、ムラがないように散布する。
- u 収穫後も被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- u 多発する場合は、9月上旬～10月上旬頃にICボルドー412等を2週間間隔で計3回散布する。

温州みかん

黒点病



黒点病被害果

特徴

- u 雨が続くと発生が増加する。

防除のポイント

- u 発生が見込まれる時期（梅雨期、秋雨期）に、ジマンダイセン／ペンコゼブ水和剤、ストロビードライフフロアブル等を散布する。

- u 感染源の枯枝は切り取り、ほ場外に持ち出し処分する。

注1) ジマンダイセン／ペンコゼブ水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。
注2) 収穫時期が近づいているので、ジマンダイセン／ペンコゼブ水和剤等の使用時期が比較的長い薬剤については、使用時期に特に注意する。

ミカンハダニ



ミカンハダニ被害葉

特徴

- u 葉に寄生して吸汁するため、吸われた部分は色が抜けて白くなる。多発すると落葉が早まる。

防除のポイント

- u 発生を認めたら、ダニコングフロアブル、スターマイトプラスフロアブル、ダニエモンフロアブル等を散布する。
- u 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- u 薬剤散布を行う際には、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

ミカンサビダニ



ミカンサビダニ被害果*

特徴

- u 高温、乾燥時に発生が多い。

防除のポイント

- u 発生を認めたら、コテツフロアブル、ダニエモンフロアブル、ハチハチフロアブル等を散布する。
- u 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

果樹類全般

果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ※

特徴

- u チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ等が加害する。

防除のポイント

- u 発生量や加害時期は年、ほ場により変動するので、カメムシ類の活動が活発になる夕方に園内を見回り、飛来を確認したら、速やかに薬剤散布を行う。
- u 発生を認めたら、スタークル／アルバリン顆粒水溶剤（かんきつ、かき、なし等）、アディオン乳剤（かんきつ、かき、なし等）等を散布する。多発時には、残効性が比較的高いピレスロイド系薬剤、ネオニコチノイド系薬剤を中心に散布する。
- u 薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。

野菜

なす

褐紋病



褐紋病被害葉

特徴

- u 葉や茎に褐色の病斑ができる。果実では褐色で円形の斑点ができ、進展すると腐敗する。さらに病状が進むと柄子殻という小さな黒点を形成する。
- u 特に露地の水なすで発生しやすい。
- u 梅雨時期から発生し、盛夏過ぎから被害が増える傾向にある。
- u 病原菌は被害植物とともに土壤中に残り、次作の伝染源となる。

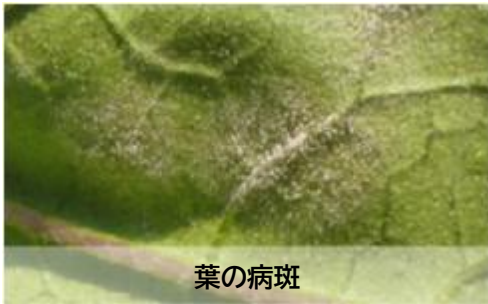
防除のポイント

- u ほ場内の排水や風通しを良くし、湿度を上げない。
- u 発生を認めたら直ちに発病部位を取り除き、ほ場外に持ち出して処分するとともに、ベンレート水和剤、スクレアフロアブルを散布する。
- u 被害が発生したほ場では連作を避ける。
- u 収穫後の種取りは、褐紋病の発生していないほ場や株から行う。



褐紋病被害果*

うどんこ病



葉の病斑

特徴

- u 窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- u 発生を認めたら、パンチョTF顆粒水和剤、スコア顆粒水和剤、プロパティフロアブル等を散布する。
- u 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- u 発生初期は、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。
- u 6月～9月にかけて発生が多い。

防除のポイント

- u 発生を認めたら、アフーム乳剤、ファインセーブフロアブル、モベントフロアブル等を散布する。
- u 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- u 雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場及び周辺の除草を行う。

きゅうり（施設抑制裁培）

バと病



バと病*

特徴

- u 気温20～24℃で発生が多い。

防除のポイント

- u 排水を良好にし、多湿を避ける。
- u 施設栽培では換気に注意し、結露を避ける。
- u 被害茎葉を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- u 肥料切れしないように、肥培管理に注意する。
- u 発生が見込まれる時期に、ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤等を散布する。発生を認めたら、リドミルゴールドMZ、アミスター20フロアブル等を散布する。

うどんこ病



うどんこ病*

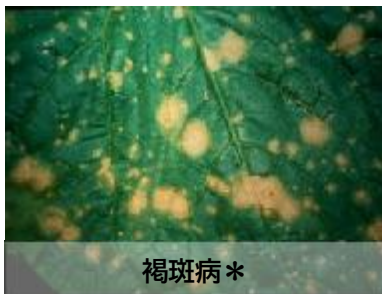
特徴

- u 施設栽培で、日照不足、乾燥時に発生が多い。
- u 昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。

防除のポイント

- u 被害葉を除去し風通しを良くするとともに、施設内の換気を良好にする。
- u 発生が見込まれる時期に、ベルコート水和剤、フルピカフロアブル等を散布する。発生を認めたら、アフエットフロアブル、トリフミン水和剤等を散布する。

褐斑病



褐斑病*

特徴

- u 高温、多湿のハウス栽培で発生が多い。
- u 天井フィルムからの結露水のポタ落ちで発病が助長される。

防除のポイント

- u ハウス内の換気を良好にし、多湿にならないよう注意する。
- u 被害葉・老化葉は早めに除去する。
- u 発生が見込まれる時期に、ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤、ベルコート水和剤等を散布する。発生を認めたら、カンタスドライフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤等を散布する。

ミナミキイロアザミウマ



ミナミキイロアザミウマ被害葉※

特徴

- u 発生初期は、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。
- u ミナミキイロアザミウマは、キュウリ黄化えそ病等のウイルスを媒介する。

防除のポイント

- u 施設の開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- u 発生を認めたら、グレーシア乳剤、アフーム乳剤、バストガード水溶剤等を散布する。

黄化えそ病



キュウリ黄化えそ病被害葉と
ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- u キュウリ黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス（MYSV）によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、すいか、しろりり、にがうり等に感染する。
- u MYSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化などの症状を示す。
- u MYSVは、ミナミキイロアザミウマによって媒介される。

防除のポイント

- u MYSVを媒介するミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。
- u 発病株は、ほ場外に持ち出し処分する。

退緑黄化病



キュウリ退緑黄化病被害葉と
コナジラミ成虫※

特徴

- u キュウリ退緑黄化病は、ウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、すいか等に感染する。
- u CCYVは、タバココナジラミによって媒介される。
- u CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。
- u キュウリ退緑黄化病と黄化えそ病は見た目で見分けることは困難である。

防除のポイント

- u CCYVを媒介するタバココナジラミの防除の徹底が重要である。
- u 発病株は、ほ場外に持ち出し処分する。

トマト・ミニトマト（施設栽培）

葉かび病・すすかび病



被害葉 表（左）

裏（右）※

特徴

- u 近年増加傾向にある。
- u すすかび病は、葉かび病より葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- u 被害茎葉は、早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- u 発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤、アフェットフロアブル等を散布する。
- u 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

トマト黄化葉巻病



トマト黄化葉巻病発症株とタバココナジラミ成虫※

特徴

- u トマト黄化葉巻病に感染すると、生育の停止・着果不良を起こす。
- u 本ウイルスはタバココナジラミによって媒介される。

防除のポイント

- u トマト黄化葉巻病は、定植後の早い時期に感染すると収量への影響が大きく、株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
- u 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- u ほ場及び周辺の除草を行う。特に野生生えトマトの除草は徹底的に行う。

野菜・花き類

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

シロイチモジヨトウ



シロイチモジヨトウ幼虫

特徴

- u ねぎでの発生が多いが、その他しゅんぎく、ナス科野菜、アブラナ科野菜、豆類、きく、花き類等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- u 発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。
- u 発生を認めたら、コテツフロアブル（ねぎ、キャベツ等）、ロムダンフロアブル（ねぎ、花き類・観葉植物等）、プレオフロアブル（ねぎ、キャベツ等）等を散布する。
- u 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

ハスモンヨトウ



ハスモンヨトウ幼虫

特徴

- u ナス科野菜、アブラナ科野菜等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- u 老齢幼虫の防除は困難なので、発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。
- u 発生を認めたら、**アニキ乳剤**（なす、トマト、きゅうり、キャベツ、ブロッコリー、非結球あぶらな科葉菜類等）、**プレバソフフロアブル5**（なす、キャベツ、ブロッコリー等）等を散布する。
- u 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

ヨトウムシ類については「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。

http://www.jpnn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_l.pdf

コナガ



コナガ成虫 ※



コナガ幼虫 ※

特徴

- u 主にアブラナ科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- u 一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- u 発生を認めたら、**ディアナSC**（キャベツ、非結球あぶらな科葉菜類等）、**デルフィン顆粒水和剤**（野菜類）等を散布する。
- u 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

- u 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介する。

防除のポイント

- u 発生を認めたら、**コルト顆粒水和剤**（なす、きゅうり、トマト、キャベツ、花き類・観葉植物等）、**スタークル/アルバリン顆粒水溶剤**（なす、きゅうり、キャベツ、非結球あぶらな科葉菜類等）、**ウララDF**（なす、きゅうり、トマト、キャベツ、非結球あぶらな科葉菜類等）等を散布する。
- u 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。